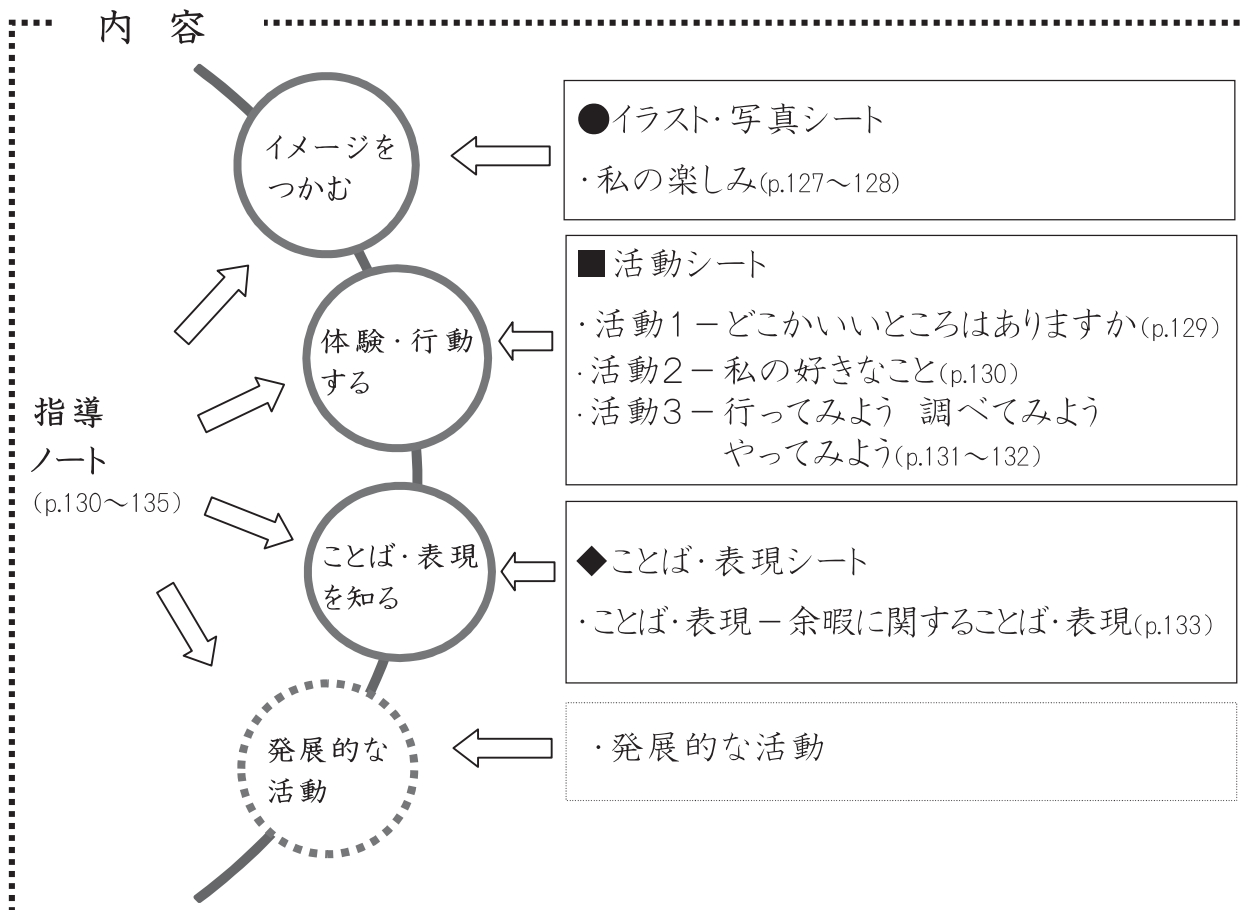


よ か た の (44) 余暇を楽しむ



取り上げる生活上の行為の事例

- (4401010)「余暇を過ごす場所や利用方法を知る」
- (4401070)「適当な人からアドバイスをもらう」
- (4402080)「同僚や周囲の人からの口コミ情報を得る」
- (4403030)「公共施設の利用方法を尋ねる」

教室活動の目標

- ・情報を得て、余暇を楽しむ

教室活動のねらい

- ・外出や余暇の計画について人に相談できる
- ・知人の話から必要な情報を取ることができる
- ・地域の公共施設で、自分の希望を伝え、説明の内容を理解することができる

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

- (4401010)「余暇を過ごす場所や利用方法を知る」
- (4401070)「適当な人からアドバイスをもらう」
- (4402080)「同僚や周囲の人からの口コミ情報を得る」
- (4403030)「公共施設の利用方法を尋ねる」

教室活動の目標

- － 情報を得て、余暇を楽しむ

教室活動のねらい

- － 外出や余暇の計画について人に相談できる。(活動1)
 - － 知人の話から必要な情報を取ることができる。(活動1, 活動2, 活動3)
 - － 地域の公共施設で、自分の希望を伝え、説明の内容を理解することができる。(活動3)
- ・ 学習者たちは余暇をどのように過ごしているでしょうか。仕事で疲れて一日中寝たり、掃除やたまった洗濯をしたりして、自分の楽しみを持つ余裕などないかもしれません。ここでは余暇をテーマとして取り上げ、世界を広げることがを提案します。

活動前に確認しておくこと

- － 休みの日などに気軽に行ける場所、観光地
- － 公民館や市民会館などで行われている講座や活動
- － 公共の施設(図書館、公民館、スポーツセンターなど)の利用方法

準備する素材

- － 地域の催しやサークル、講座などが掲載されている情報誌や広報紙など
- － 指導者や協力者の趣味を紹介する写真や実物など
- － 公共の施設の案内や場所が分かる簡単な地図及び図書館カードの実物など

教室活動の展開の説明

イメージをつかむ

●イラスト・写真シート

・私の楽しみ（p.127～128）

- ・ イラスト・写真シートを見せる前に、学習者に休みの日はどのように過ごしているか聞いてみましょう。また、指導者や協力者も自分の休日の過ごし方を話してみるのもいいでしょう。指導者や協力者の話に合わせて、学習者からも自然に話が出てくることでしょう。
- ・ 次に「イラスト・写真シート」(p.127～128)を見せて、これは何か、何をしているところか、このような経験があるかなど聞いてみましょう。また、ほかにどんなことをしたことがあるか、どんなことが好きか、どんなことをしてみたいかなど、話してもらいましょう。

< 問いかけ例 >

「休みの日は何をしますか」

「休みの日にどこに行きましたか」

「何をするのが好きですか」

「時間があったら、何をしたいですか」

体験・行動する

■活動シート

・活動1ーどこかいいところがありますか（p.129）

- (1) まず、始めに学習者それぞれに、休みの日にどこへ行ったことがあるか、どこが良かったか、思い出してもらいます。学習者同士ペアになり、お互いに行ったところ、良かったところを聞き合います。公園でも外国食材の店でも何でも構いません。できるだけたくさん出してもらい、学習者同士共有するといいいでしょう。
- (2) ここでは、自分の希望を伝えて、身近な日本人にお勧めの場所を聞くという会話を提示しています。近くのちょっとした憩いの場所や穴場などはやはり地域の人がよく知っています。このような問いかけは、挨拶などで顔見知りになった日本人と話すきっかけにもなることでしょう。会話例を練習したあとは、指導者または協力者が近所の人役になって、学習者の希望に沿った場所を答えてあげてください。会

話例では、Aさんが「静かなところで」と希望を出していますが、学習者の希望によって、「空気のいいところ」「自然があるところ」「買い物ができるところ」など表現を変えて練習するといいいでしょう。

- ・ 少し話せる学習者同士であれば、会話例でペアワークしたあと、さらに自由に会話を続けてみるのもいいでしょう。おもしろい展開になるかもしれません。
- ・ この会話例では、近場を取り上げていますが、このほかにも遊園地や動物園、水族館、博物館など、また少し足を延ばして日帰り温泉旅行なども写真を見せながら紹介しておいてはいかがでしょうか。学習者から多くの発話が期待でき、また「入場料」や「入館料」「休館日」「交通費」などのことばを覚えるいい機会ともなるでしょう。
- ・ 人を介して情報を得るほかに、地域によっては、出張所や市役所などに多言語の情報誌や、国際交流イベントなどのチラシが置いてあるところもあります。それらを実際に教室で見せても大いに役立つでしょう。また観光案内所によっては、外国人向けの多言語のパンフレットを用意しているところもあります。出張所や市役所、観光案内所などに行って、多言語の冊子やパンフレット、チラシなどをもらってくるというタスクを課し、教室で持ち寄ったものをみんなで読んでみるのも楽しいでしょう。

体験・行動する

■活動シート

・活動2－私の好きなこと(p.130)

- (1) 学習者同士あるいは協力者も含めて、お互いに趣味、または好きなことを聞きます。できれば、好きな理由も聞くとよいでしょう。趣味や好きなことについて話し合うことで、互いに親近感を持ち、理解が深まることでしょう。ここでは「趣味は何ですか。」「どうして〇〇が好きですか。」など質問できるようにしておきましょう。
- (2) このタスクでは、学習者が前もって品物や写真を準備しておきます。したがって数日前の予告が必要となります。

- ・ここでは、品物あるいは写真などを見せながら、自分の好きなこと、趣味を皆に紹介します。紹介すると言っても、品物あるいは写真があるので、そんなに難しいことではありません。例えば、楽器であれば、「これは～です」「音がきれいです」など発話して、楽器を鳴らせばそれだけで聞いている方は楽しいものです。学習者の日本語レベルが高ければ、それだけ詳しい説明ができることでしょう。今、特に趣味などないというのであれば、昔好きだったこと、やっていたことでも構いません。皆に向けて発表する前に、個別に少し練習時間を取ってください。それぞれの学習者に、これがあればもっと分かりやすい、覚えておくと便利な語彙・表現を、ここで個々に覚えてもらいましょう。そして、発表時に皆で共有するとよいでしょう。実物や写真を見ることで、自分もやってみたくなるかもしれません。共感や質問など活発な発話が期待されますので、そこでも大いに日本語の語彙や表現を広げてください。
- ・学習者が発表する前に、まず指導者や協力者が、自分の趣味などを、写真や実物(楽器や作品など)を見せながら、紹介してみるとよいでしょう。学習者が大いに興味を持つとともに、発表の実際が分かり、スムーズに進めることができるのではないのでしょうか。また発話も大いに広がることでしょう。

体験・行動する

■活動シート

・活動3－行ってみよう 調べてみよう やってみよう (p.131～132)

- ・地域には市民(区民)会館、公民館、スポーツセンター、体育館、運動場、図書館など、さまざまな公共施設があります。ここでは、それぞれの学習者が、自分が行ってみたいところに実際に足をのばし、そこでどんなことができるのかを、開館時間や閉館時刻、休館日なども含めて調べてくるタスクを提示しています。これは基本的に学習者だけで行うことを想定しています。指導者はあらかじめ、各場所の情報を調べておいてください。
- ・出発前に、学習者は自分の調べたいこと、聞きたいことをあらかじめメモ(自国語でも構いません)しておくとい良いでしょう。職員の人に話を切り出す、質問をする、お礼を言う、などの流れも簡単に練習しておきましょう。(開館/閉館時刻など、その場に明記してあるものは聞く必要はありません。)

以下に例を示します。

＜「話の切り出し方」の表現の例＞

「ちょっとすみません。」

＜質問の例＞

「ここにはどんなサークルがありますか。」

「ここで、どんなスポーツができますか。」

「初めてでも大丈夫ですか。」

「本は何冊借りられますか。」

＜お礼の表現の例＞

「ありがとうございました」

- ・ 時間があれば、図書館の利用については、指導者または協力者が地域の図書館に同行して一緒に見て回るとよいでしょう。公共施設を利用する手始めとして、図書館カードを発行してもらい、本やCDを借りてみるということをタスクにしてはいかがでしょうか。図書館カードの発行には申込書の記入も必要です。それも含めて、そこで本が何冊借りられるか、どのくらいの期間借りられるかなど、自分でやり取りして聞いてくるというのも、自信につながるでしょう。
- ・ 調べてきたことを発表し合い、学習者同士、情報を共有します。発表例に示した基本的な情報のほか、感想なども入れて発表してもらいたいでしょう。
- ・ 学習者がもらってきた資料を皆で読んでみましょう。日本語で書かれた情報を読み取るのは難しいと思いますが、まず、学習者にできるだけ推測してもらい、その後で、大切な部分をピックアップして内容を取っていく作業に入ってみてください。始めはなかなか推測することも大変かもしれませんが、よく出てくる語彙や表現（漢字が読めなくても、目にするだけでも）に慣れていけば、少しずつ見当がつくようになってくるのではないのでしょうか。
- ・ あらかじめ指導者または協力者が手に入れておいた資料（学習者に有用だと思われるもの、例えば国際交流会のチラシ、日本語教室の案内など）もここでいっしょに読み、情報提供の機会にするとよいでしょう。

- ・ここでは、公共施設を実際に見て情報を取って来るということに重点を置いていますが、パソコンが準備できれば、その後で、指導者または協力者が学習者と一緒にインターネットで検索して、調べてみるのもよいでしょう。
- ・学習者が行ってみたい、してみたい、始めてみたいことがあったら、背中を押してあげましょう。そして、学習者が体験してきたら、どうだったか、ぜひ聞いてみましょう。皆で聞き合えば、互いにいい刺激になり、世界が広がることでしょう。

多言語情報例

例)文化庁『日本語学習・生活ハンドブック』

P.63～65 「2. カレンダーと年中行事」

P.75～77 「5. 国際交流協会～知る・出会う・学ぶチャンスがそこにある」

P.79～81 「6 公共施設・公共サービス～上手に利用して、楽しく過ごそう」

P.95～113 「2 日本語学習の場所」「インターネットサイトの案内」

ことば・表現を知る

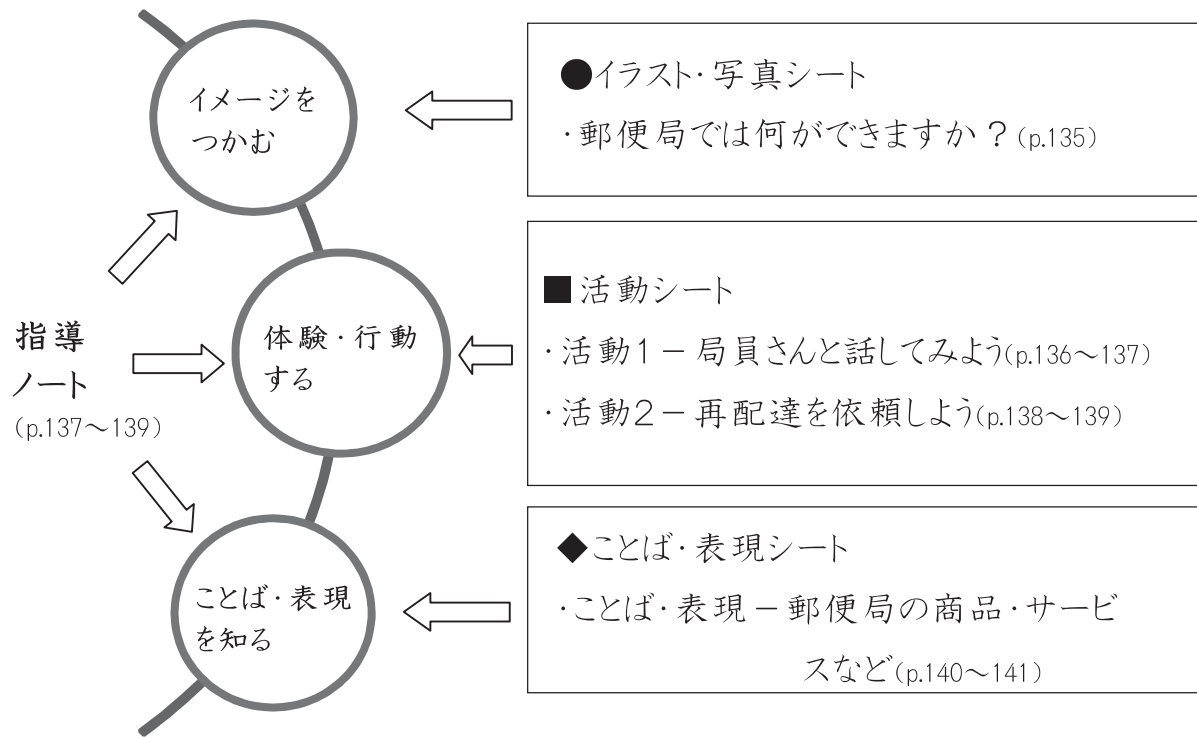
◆ことば・表現シート

・ことば・表現－余暇に関することば・表現(p.133)

- ・余暇に関することばは幅広く際限がないので、ここでは施設の名前、趣味の内容、余暇を利用して行ける場所、施設利用に関することばを中心に上げています。これ以外にも、チラシやパンフレットなどからよく使われるものは取り上げて、覚えるようにするとよいでしょう。

ゆうびん たくはいびん りよう
(45) 郵便・宅配便を利用する

内 容



取り上げる生活上の行為の事例

- (4501020)「郵便局のシステムを理解する」
- (4501100)「手紙や葉書を書いて送る」
- (4501120)「不在配達通知に対応する」

教室活動の目標

- ・郵便局のサービスを知り，必要に応じて利用することができる

教室活動のねらい

- ・切手やはがきなどを買うことができる
- ・手紙や小包などを送ることができる
- ・不在配達通知に対応することができる

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

(4501020)「郵便局のシステムを理解する」

(4501100)「手紙や葉書を書いて送る」

(4501120)「不在配達通知に対応する」

教室活動の目標

－ 郵便局のサービスを知り、必要に応じて利用することができる。

教室活動のねらい

- － 切手やはがきなどを買うことができる。
 - － 手紙や小包などを送ることができる。
 - － 不在配達通知に対応することができる。
- ・ 近年は電子メールやインターネット回線を利用した無料電話の普及など情報通信手段が大きく変わりつつあり、郵便を利用する機会は少なくなっているかもしれませんが、例えば求職の際に履歴書や職務経歴書を郵送したり、お世話になった人や出身の知り合いなどに手紙や小包を送ったりする場合もあるでしょう。また、自分自身では送らなくても、誰かが送ってきたものを受け取る可能性もあります。そのようなときに、どう対応すればいいでしょうか。ここでは、そうした場面での行動を練習してみましょう。

イメージをつかむ

●イラスト・写真シート

・ 郵便局では何ができますか(p.135)

- ・ 最初にイラスト・写真「郵便局では何ができますか」(p.135)を学習者と一緒に見ながら、日本語または学習者の母語などで、以下のようなやり取りをしてみましょう。

＜やり取りの例＞

「これは何ですか。ここで何ができますか。(地域の)どこにありますか。」

「よく利用しますか。家族の中では誰が利用しますか。どんなときに利用しますか。出身ではどうでしたか。」

「利用するとき、日本語を使いますか。また、局員の日本語は分かりますか。」

- ・このようなやり取りを通じて、学習者が日常生活の中で郵便局をどの程度利用しているか、またその実際場面で日本語をどの程度理解または使用しているかについて把握できるでしょう。学習者自身が持つ郵便等に関するイメージが構造化され、活性化されるだけでなく、指導者が今後の活動展開を考えていく上で、きっと役に立つはずです。

体験・行動する

■活動シート

・活動1－局員さんと話してみよう(p.136～137)

- ・「活動1」の会話例(1)や会話例(2)を使ってキーフレーズを確認し、学習者の日本語レベルや地域の状況などに応じて適宜アレンジした上で、ロールプレイを行います。
- ・会話例(1)は手紙や小包などを送るときの表現ですが、切手やはがきなどを買うときにも広く応用することができます。買いたいものを日本語でうまく言えない段階の学習者に用件のメモを渡し、窓口でたった一言「これ、お願いします。」と言ってメモを提示すれば、意図は局員にも通じますから、必要なものを買ってくるという行動を達成することができるはずです。生活者としての学習者にとって、より重要なのは、日本語を正確に発話することではなく、目標行動を達成することです。現段階での日本語レベルに応じて、実生活に役立つ練習を工夫してください。
- ・会話例(2)は切手やはがきなどを買うときの表現です。学習者のニーズなども勘案して、よく使う語彙を取り上げましょう。
- ・ロールプレイに際しては、ことば・表現「郵便局の商品・サービスなど」(p.140)にある写真・イラストをコピーして切り離し、それらを示すことでロールプレイを始める方法もあります。そうすることで、語彙表現の確認・定着練習にもなります。

体験・行動する

■活動シート

・活動2－再配達を依頼しよう(p.138～139)

- ・「活動2」(p.138～139)の不在配達通知／ご不在連絡票は、まず写真を見て、いろいろとやり取りをしましょう。

＜やり取りの例＞

「これは何ですか。どこに入っていましたか。どうして入っていましたか。これをもらったとき、どうすればいいですか。」

- ・ これを受け取ったときにどうすればいいかは、写真の中にある URL や電話・FAX 番号、時間などを読み取ることで、ある程度類推できるかもしれません。さまざまな選択肢があることを一つ一つ確認しつつ、自分ならどの方法を選ぶか、学習者自身に考えてもらった上で、必要な行動を練習していきましょう。

ことば・表現を知る

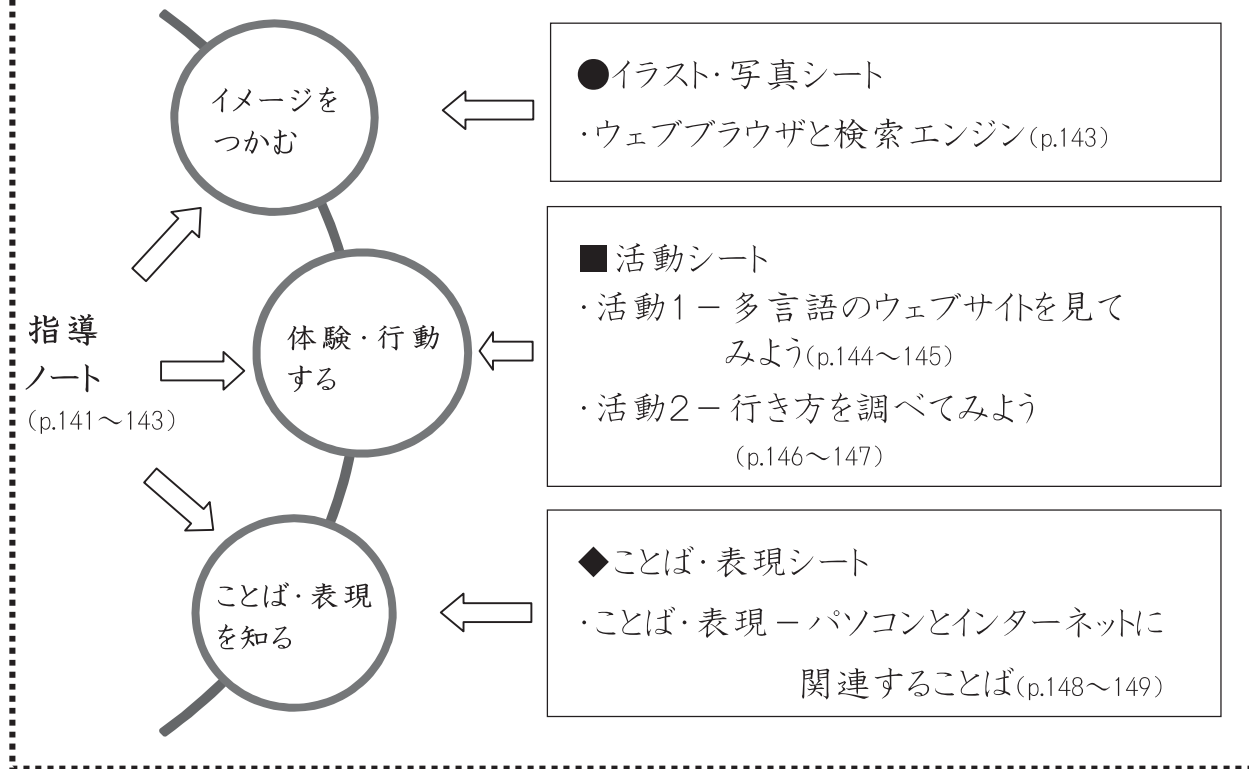
◆ことば・表現シート

・ことば・表現－郵便局の商品・サービスなど(p.140～141)

- ・ 「ことば・表現－郵便局の商品・サービスなど」(p.140～141)は、郵便局で取り扱いしている商品やサービスに関連する単語、さらにはそれらを利用する際によく使う表現などを並べてあります。「活動1」を行う前に、読みと意味を確認するとよいでしょう。
- ・ 国際郵便に関する説明(<http://www.post.japanpost.jp/int/index.html>)は、日本語だけでなく英語・中国語・韓国語・ポルトガル語に切り替えることもできます(2011 年 10 月現在)。学習者は、母語または理解可能な言語で詳しい情報を入手することができれば、郵便サービスをより上手に活用するようになるかもしれません。

(46) インターネットを 利用する

内 容



取り上げる生活上の行為の事例

(4602040)「インターネット検索の方法を人に尋ねて理解する」

教室活動の目標

- ・インターネットを通じて、必要な情報を得る

教室活動のねらい

- ・インターネットの操作に慣れる
- ・インターネットを利用する際に注意すべきことを知る
- ・検索エンジンを使って、必要な情報を探す

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

(4602040)「インターネット検索の方法を人に尋ねて理解する」

教室活動の目標

－インターネットを通じて、必要な情報を得る

教室活動のねらい

- －インターネットの操作に慣れる
- －インターネットを利用する際に注意すべきことを知る
- －検索エンジンを使って、必要な情報を探す

- ・ インターネットは、現代では欠かせない情報媒体になりつつありますが、使いこなしている人とそうでない人の格差は開く一方かもしれません。学習者の中にも、母語なら使えるけど日本語ではまだという人もいるでしょうし、母語でも日本語でも難しいという人もいるでしょう。インターネットはおろか、パソコンにすら触ったことがない学習者もいるのではないのでしょうか。パソコンに触ったことのない学習者なら、まずはパソコンの電源の投入／切断(ON／OFF)やマウスの操作から始まり、日本語(あるいは母語)でのキーボード入力方法を知る必要があります。その上で、インターネットの使い方を学ぶことになるはずです。

このように学習者の状況は千差万別です。この教材例では基本的なパソコン操作ができる段階の学習者を想定していますが、利用経験や生活上のニーズなどに応じて、ステップを考えながら教室活動を進めていきたいところです。

イメージをつかむ

- イラスト・写真シート
- ・ウェブブラウザと検索エンジン(p.143)

- ・ 最初にイラスト・写真シート「ウェブブラウザと検索エンジン」(p.143)を学習者と一

緒に見ながら、日本語または学習者の母語などで、以下のようなやり取りをしてみましょう。

＜やり取りの例＞

「これは何ですか。ウェブブラウザのアイコンと、検索エンジンのトップページですね。みなさんは、インターネットをよく使いますか（使ったことがありますか）。どんなときに、どんな目的で使いますか。日本語のウェブサイトも利用しますか。」

- ・このようなやり取りを通じて、学習者のインターネット習熟度（あるいはパソコンスキル）が見えてくるでしょう。指導者が今後の活動展開を考えていく上で、きっと役に立つはずです。

体験・行動する

■活動シート

・活動1－多言語のウェブサイトを見てみよう(p.144～145)

- ・「活動1」(p.144～145)は、母語などでの利用を含めてインターネットそのものにあまりなじみのない学習者を対象とした教室活動です。例1ではニュースを、例2では自治体ホームページを、それぞれ多言語ウェブサイトの例として取り上げています。インターネットではどんなことができるかというイメージをつかんで今後の学習の動機づけを図るとともに、ウェブブラウザの基本的な使い方を身に付けることが主なねらいです。
- ・ただし、例2のように機械翻訳にリンクしているサイトの場合、自動的に生成される訳文は必ずしも完璧でないことに留意する必要があります。インターネット上の情報を鵜呑みにしないなど、メディアリテラシーの涵養にも配慮しましょう。

体験・行動する

■活動シート

・活動2－行き方を調べてみよう(p. 146～147)

- ・「活動2 行き方を調べてみよう」(p.146～147)は、実際の生活場面にも応用可

能な、より実践的な利用練習です。ここでは宇都宮から NHK スタジオパークまでの行き方を調べるということを例題として掲げていますが、交通機関を利用してどこかに出かける教室活動がある場合など、そうした事前準備の一環としてインターネット検索を利用すれば、学習者の意欲向上にもつながるものと思われます。検索課題として、より現実味のある事例で試してみることをお勧めします。

- ・ 目的地があらかじめ決まっている場合の課題設定はさほど難しくないはずですが、目的地が決まっていない場合は課題の自由度が高くなり、その分情報量も増大してプロセスが複雑になるでしょう。インターネットにも日本語にもかなり習熟していないと、学習者は何を調べていいか分からなくなってしまう恐れもあります。学習者のスキルに応じた課題の設定に際しては、何を調べる課題なのかという目標を明確化することが重要です。
- ・ 路線検索／乗換案内にはさまざまなサイトがあります。一概にどれがいいということもありませんので、前もって指導者の側でいろいろと比べてみてください。なお、インターネットに慣れ親しんでいる学習者なら、さまざまな路線検索サイトで試した結果を見比べて、それらの良し悪しを判断することも可能かもしれません。

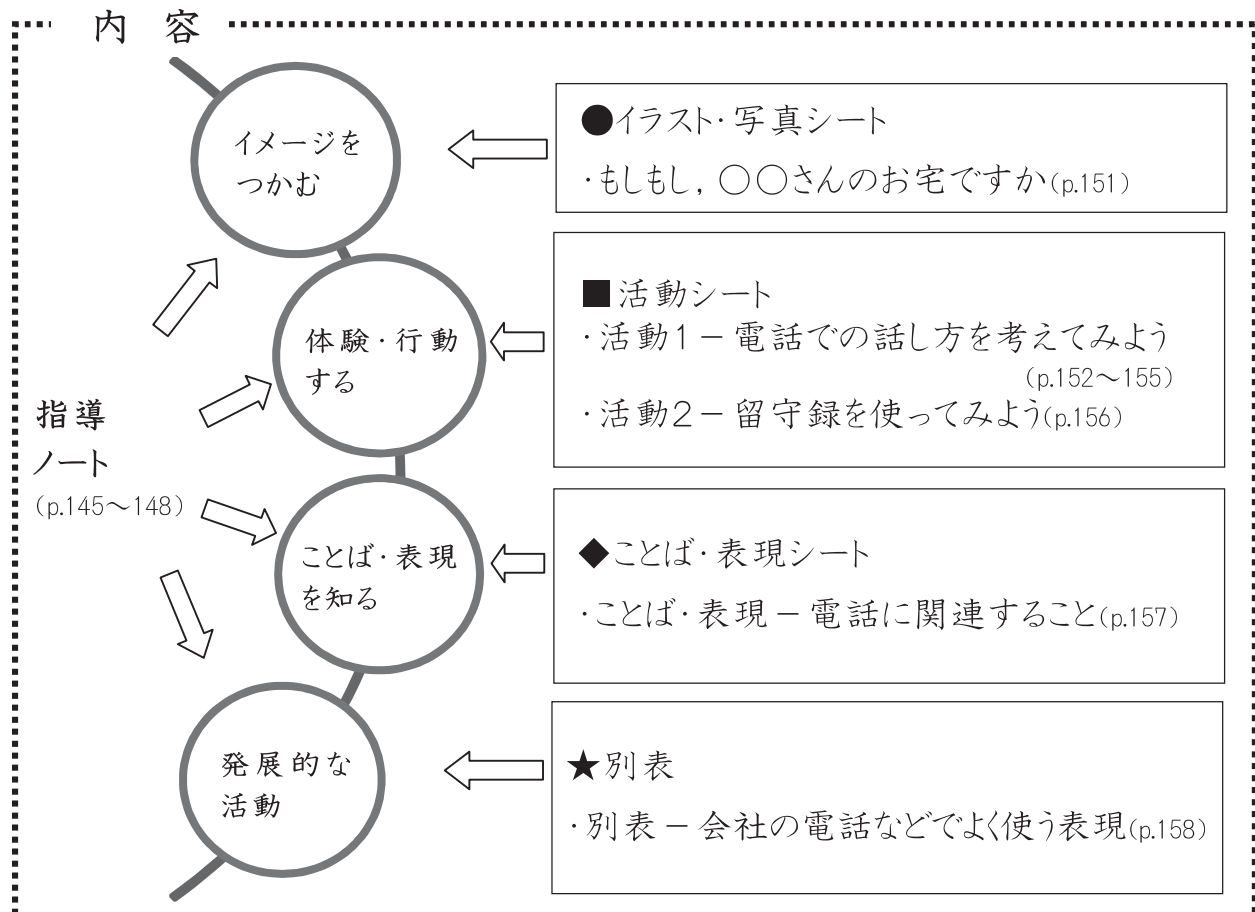
ことば・表現を知る

◆ことば・表現シート

・ことば・表現－パソコンとインターネットに関連することば(p. 148～149)

- ・ 「ことば・表現－パソコンとインターネットに関連することば」(p.148～149)は、インターネット検索やその前提となるパソコンの基本操作に関わる単語を並べてあります。学習者のパソコンスキルに応じて適宜確認してください。

でんわ ふぁくしみる りよう
(47) 電話・ファクシミリを 利用する



取り上げる生活上の行為の事例

(4701100)「電話を掛ける」

(4702070)「応答する」

教室活動の目標

・日本語の電話表現に慣れる

教室活動のねらい

- ・相手を呼び出してもらうことができる
- ・適切な電話の受け答えができる
- ・電話の取次ぎ、伝言の受け方に関する表現を知っている

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

(4701100)「電話を掛ける」

(4702070)「応答する」

教室活動の目標

－日本語の電話表現に慣れる。

教室活動のねらい

- －相手を呼び出してもらうことができる。
 - －適切な電話の受け答えができる。
 - －電話の取次ぎ、伝言の受け方に関する表現を知っている。
- ・ 外国語で電話するのは、なかなか容易なことではありません。文字や(非言語的な)ジェスチャー・しぐさ・表情などの視覚的な情報が全く伝わらず、音声だけでやり取りしなければならないからです。したがって、学習者が電話しようとする相手は、母語が通じる人ばかりになってしまうかもしれません。しかし、そういう人に電話する場合でも、間違い電話を掛けてしまうこともあるでしょうし、相手の家族の中には母語が異なる人もいて、その人が電話に出ることもあるでしょう。そのような場面に遭遇しても困らないよう、適切に対応するための最低限の日本語表現を理解し、実際に聞いたり話したりできるように練習しておく必要があるはずです。ここでは、そうした表現を学びましょう。

イメージをつかむ

●イラスト・写真シート

- ・もしも、〇〇さんのお宅ですか(p.151)
- ・ 最初にイラスト・写真シート「もしも、〇〇さんのお宅ですか」(p.151)を学習者と

一緒に見ながら、日本語または学習者の母語などで、以下のようなやり取りを試みましょう。

＜やり取りの例＞

「これは何ですか。」

「よく電話をしますか。誰と話しますか。どんなことを話しますか。週に何回電話しますか。一回何分ぐらい話しますか。」

「電話するとき、日本語で話しますか。母語で話しますか。」

「電話で何か困った経験はありますか。」

- ・このようなやり取りを通じて、学習者が日常生活の中で電話をどのように使っているか、また、実際の場面で日本語をどの程度理解または使用しているかについて把握できるでしょう。
- ・学習者自身が持つ電話でのやり取りに関するイメージが整理され、さらに活性化されるだけでなく、指導者が今後の活動展開を考えていく上で、きっと役に立つはずです。

体験・行動する

■活動シート

・活動1－電話での話し方を考えてみよう(p.152～155)

- ・「活動1」の会話例(1)「間違い電話の場合」、会話例(2)「本人の場合」、会話例(3)「在宅の場合」、会話例(4)「留守の場合」を使ってキーフレーズを確認し、学習者の日本語レベルや地域の状況などに応じて適宜工夫を加えた上で、ロールプレイを行います。
- ・なお、これらの会話例のうち、(1)「間違い電話の場合」と(4)「留守の場合」については、続きの展開部分が空白になっています。この場面で何を言ったらいいかを学習者と一緒に考えることで、それぞれの個人の背景にある異文化の発見につながるかもしれません。

＜(1)の続きの例＞

Aさん:「あのう、そちらは××－××××－××××ですか。」

Bさん:「いいえ、××－××××－△×××です。」

Aさん:「ああっ、すみません、間違えました。」

<(4)の続きの例①>

Aさん:「何時ごろお帰りですか。」

Bさん:「～ごろ帰ります。」

Aさん:「じゃ、また(その頃)電話します。」

Bさん:「よろしくお願いします。失礼します。」

<(4)の続きの例②>

Aさん:「何時ごろお帰りですか。」

Bさん:「すみません、ちょっと分かりません。」

Aさん:「じゃ、お帰りになったら、お電話いただけますか。」

Bさん:「すみません、お名前もう一度お願いします。」

Aさん:「△△です。」

Bさん:「△△さんですね。お電話番号お願いします。」

Aさん:「××-××××-××××です。」

Bさん:「××-××××-××××ですね。」

Aさん:「じゃ、よろしくお願いします。」

Bさん:「わかりました。失礼します。」

- ・ ロールプレイに際しては、(おもちゃまたは本物の)受話器を渡し、それを持ちながら練習すると、実際に電話で話している気分を醸し出すことができます。また、コードレス電話の親機と子機(あるいは携帯電話など)を用意し、壁を隔てた隣の教室から電話を掛けるなど、お互いの顔が見えない状況を作り出して練習すれば、より現実の場面に近いロールプレイになるはずです。
- ・ 教室で何度か練習した後、可能であれば実際の電話回線を利用して練習することを検討してください。特に公衆電話は、プッシュボタンが意外に硬くて押し間違いが少なくないことや、受話器の音量を調節できること、市外の場合は遠距離になるにつれて同じ料金で掛けられる時間が短くなること、さらに10円硬貨を複数枚入れたときはおつりが出るのに100円硬貨ではおつりが出ないことなど、実際に利用してみないと実感できないことがいくつかあります。屋外に出かける活動の機会があれば、公衆電話から教室のスタッフに現在地を報告するタスクを組み込んでみるのも一つの方法です。

体験・行動する

■活動シート

・活動2－留守録を使ってみよう(p.156)

- ・活動2「留守録を使ってみよう」(p.156)の「留守番電話にメッセージを残す(録音する)／聞く(再生する)」は、三つの意味で練習になります。

第一には、相手に伝えるべき情報を制限時間の中で要領よく話さなければならないため、話す内容を事前に整理しておくことです。内容は、学習者自身が考え出すとより深い練習になりますが、学習者の状況によっては(ロールプレイカードのような形で)母語または日本語である程度の方向性を示してもいいでしょう。

第二には、短い制限時間の中で実際に発話することです。相手が聞き取れるような声量・速度・明瞭さで話すことが必要になります。

そして第三には、(自分または他人が)残したメッセージを再生し、聞いて内容を理解できるか試すことです。学習者自身がメッセージを残した場合はフィードバック(振り返り)に使うことができますし、あるいは日本語母語話者が残したメッセージを聞き取る練習としても応用できるでしょう。

ことば・表現を知る

◆ことば・表現シート

・ことば・表現－電話に関連することば(p.157)

- ・「ことば・表現－電話に関することば」(p.157)は、電話を掛ける／受けるという行為の中でよく目にする基礎的な単語を並べてあります。必要に応じて適宜確認してください。
- ・すでに会社の中で働いていた、近い将来に働く予定があったりして、電話利用場面が家庭内に限らない学習者もいるかもしれません。そうした場合を想定して、別表「会社の電話などでよく使う表現」(p.158)を用意しました。初級程度の学習者にはハードルの高い表現ばかりですから、学習者にとって今すぐ必要性がないときは無理に導入しない方がよいですが、①耳で聞いたときに意味が分かる、②電話会話の中で実際に言える、の二段階で練習を進めるとよいです。